Joint Commission International

名古屋大学
医学部附属病院

日本で初めてJCI（Joint Commission International）認証を取得した国立大学病院

日本における国立大学病院は、医療、教育、研究の統合機関としてのロール・モデルと考えられている。日本には、現在約50の国立大学病院があり、その中で、名古屋大学医学部附属病院は、Joint Commission International（JCI）の認証を取得した最初の国立大学病院だ。 名古屋大学は、1871年に仮病院・仮医学学校としてスタートした。その後、21世紀に入り日本人ノーベル賞受賞者13人の内6人を輩出したことは、世界屈指の研究力を持つ名古屋大学にとっての誇りである。

Joint Commission Internationalの認証取得の理由

名古屋大学医学部附属病院（以下、名大病院）は、1日に3,000人もの患者を診察する約1,000床の病院であり、患者の安全を管理することは容易いことではない。 20年以上前、致命的な医療事故が発生した際、病院は事件を隠すのではなく、すべての職員に医療安全の文化を確立する方法を模索した。その後、広範囲に及ぶ調査を経て、Joint Commission Internationalによる認証取得を選択した。

小寺泰弘病院長は言う。「JCIと他の外部評価の最大の違いは、すべての病院職員が、認証に必要とされるすべての活動に参加しなければならないことです。さらに言うならば、JCIの患者安全基準である国際患者安全目標（IPSG）は卓越しています。」

名大病院がJCIを選んだもう一つの理由は、国際的評価を築くという当院の使命を下支えすることになるということからだ。 本学の海外出身の教職員、留学生の母国の病院は、Joint CommissionもしくはJCIのいずれかの認証を取得していることが多い。海外の大学病院と同じ外部機能評価を取得することは、この点においても理にかなっている。

認証取得における課題の克服

JCIコーディネーターの松下正病院長補佐は言う。「最初の模擬審査（Mock Survey）は、方針・手順書が不十分であったため不本意な結果になりましたが、JCIからのアドバイス／ガイダンスにより、名大病院は必要文書の標準化を開始しました。」

また、松下病院長補佐はこう指摘する。「方針・手順書を作成する中で、病院での業務について、いかに明確なルールが欠如していたか思い知ることになりました。」「各診療科・部署では独自のルールでうまく機能していましたが、ほとんどが病院共通ルールではなかった。そのため、各診療科・部署間のコミュニケーションに障害を引き起こしていました。現在、私たちはみな同じルールで業務にあたり、コミュニケーションが改善されています。」

「国立大学病院として、私たちは医療に関わる知識と技術の向上に重点的に取り組んでいます。本院の職員と学生が学んだJCIの基準・方針は、彼らが質の高いケアと患者の安全性を提供する医療従事者になる際、大学の枠を超えてプラスの影響を与えています。」

多くの職員が、JCI基準により患者安全問題に対する認識を高めた。「航空会社や鉄道会社が致命的な事故を起こした場合、それはすぐに会社の評判に繋がります。しかし、医療機関の職員は常々このように考えてはいません。」と松下病院長補佐は言う。「医療というのは常に100％の満足を患者に与えることができないため、自らに対してどうしても甘くなってしまいます。たとえば、当初、ハイレベルの手指衛生を達成できるかどうか懸念しました。しかし、JCIは患者が徹底した手指衛生を望んでいることを私達に教えてくれました。」

通訳を通して審査官とやり取りをし、目を見張るような経験をした職員もいた。審査官の視点は、従来の日本人の視点とは大きく異なると言えるだろう。「正直なところ、「なぜこんなことをする必要があるのか」と考えたことがありました。」と小寺病院長は語る。「JCI要件により、患者安全を担保する方法や患者安全に関して世界最高基準のプロがどういうものなのかを認識することができました。」

「ほとんどの医療提供者は高度な教育を受けたプロであり、特に国立大学病院ともなれば、それぞれにプライドもあります。」と松下病院長補佐は付け加える。「確かに、この受審活動を冷めたい視線で見つめていた医師達の存在も少なくなかったと思います。この医師達にIPSGを浸透させることには苦労しました。そこで、ガイドラインの重要性を理解してもらうことに注力しました。念仏を唱え続けるように何度も説明を繰り返すことで，最後には理解を得られたと思います。」

ハイレベルな品質と安全性の維持

JCI基準を保持していくには、継続的な努力も要求される。松下病院長補佐は言う。「3年間の振り返りは大変ですが、それが私達の緩んだ気持ちを抑えてくれます。」松下病院長補佐はさらに続ける。「海外の最先端の臨床研究機関は、この基本的な病院の品質と安全性の追求を遵守し、米国のJoint Commissionによって厳密に審査されていることを実感します。質の高い医療サービスと研究成果は、病院の質を継続的に向上させることにより得られています。私達は世界中の患者から注目を集める医療機関になりたいと考えています。」

JCI認証取得により、患者安全における職員の役割についての認識が高まった。IPSG基準は、臨床的ケアだけでなく、施設、人事、ガバナンス、セキュリティなどを含み病院内のすべてが評価対象となる。松下病院長補佐は次のように指摘する。「医療は医師だけでなく、すべての職員の協力によって提供されるということ。そしてJCIがその協力プロセスを確認することを知り、職員にはとても励みになったと思います。」

「JCIが要求する施設基準も非常にハイレベルなものです。財政面ではかなり苦慮しましたが、この投資したコストはリスク回避とリスク管理強化のための先行投資と見なすことができ、長期的に考えれば節約につながると思います。」このように松下病院長補佐は締めくくる。

国際化の使命を果たす

「認証取得は大きな名誉であり、私達の使命を果たすために役立つと思います。」と本学の松尾清一総長は言う。「国立大学病院として、私達は医療に関わる知識と技術の向上に重点的に取り組んでいます。本院の職員と学生が学んだJCIの基準・方針は、彼らが質の高いケアと患者の安全性を提供する医療従事者になる際、大学の枠を超えてプラスの影響を与えています。」

審査官の視点は、従来の日本人の視点とは大きく異なると言えるだろう。「正直なところ、「なぜこんなことをする必要があるのか」と考えたことがありました。が、JCI要件により、患者の安全を担保する方法や患者安全に関して世界最高基準のプロがどういうものなのかを認識することができました。」